

平成21年(2009年)3月11日 (水曜日)

インタビュー

静岡市里親会 真子義秋会長



里親の現状について語る
真子義秋会長—静岡市葵区

えています」

—相談から、どんな課題が浮かんでいますか。

「里子を初めて迎えた里親は、子どもとの向き合い方、養育に不安を抱えています。同じ環境の人と会話したり、施設での育て方を学ぶことも有効ですが、やはり限界がある。専門性の高い支援機関を早急に設ける必要があると思います」

—今後の活動を展望してください。

支援機関の設置急務

「静岡市里親会

会、NPOなどに委託できることになった。昨年、浜松市で開催された全国里親大会の実行委員を務めた静岡市里親会の真子義秋会長に、里親をめぐる現状と課題を聞いた。

—県内でも里親が減少する中、静岡市の里親委託率は07年度に18・8%で全国八位と、高い委託率を維持しています。

「里親と児童養護施設、乳児院の意見交換の場や里親同士で気軽に相談ができるサロンなど、独自の活動がポイントです。活動が広がり、興味を持っていくれる方も増

では四月から、賛助会員を設けて寄付を募るようになりました。会の運営資金は現在、会費と市の補助金のみ。十分なサポートはできていません。寄付を募ることで、里親、里子の環境や制度は、地域で守り、育てていく必要があるという理解が広がればうれしい。また、わたしたちが里親支援機関となるには、NPO法人化する必要があります。人材確保や活動場所、運営費用など課題はたくさんある。法改正を機にこれまでの広報活動の足りないところを反省し、里親制度の普及に努めます」